

令和6年度 第5回 国立大学法人奈良国立大学機構理事長選考・監察会議議事要旨

日時 令和6年11月19日（火）10時00分～10時51分
場所 奈良国立大学機構第一会議室及びオンライン参加
出席者 國枝委員、松本伸之委員、松本洋一郎委員、村岡委員、越野委員、笠次委員、
和田委員、吉田委員、酒井委員、鈴木委員
欠席者 森川委員、大石委員
列席者 青山監事
事務局 榎本事務局長、向機構総務課長、矢倉奈良教育大学総務課長、
林機構総務課課長補佐
議長 松本洋一郎委員

議事に先立ち、前回会議の議事要旨を確認し、これを了承した。

審議事項

1. 大学総括理事（学長）候補者案について

議長から、資料1-1により、理事長から令和7年度からの大学総括理事（学長）候補者案に関する意見聴取の申入れがあったこと、そのため、このあと、理事長から口頭による説明を聴き、理事長と各委員との意見交換を経た後、申入れに対する本会議の回答について議論したいと考えていることの発言があった。

理事長から、現在の両大学総括理事がともに理事長の方針を理解し、理事長が期待する各大学の教育・研究の方向性を汲み取って課題に向き合い、改善への尽力を行っていること、機構の事業である「なら産地学官連携プラットフォーム」の取組についても、両大学総括理事が責任と熱意をもって協力しながら取り組むことで徐々に軌道に乗っていること、令和6年度の1年と次年度の1年を合わせて実質2年の任期として大学総括理事の業務に当たることが、組織運営の円滑性と継続性の観点から妥当と考えること、令和8年度からの大学総括理事の選考にあたっては、令和5年度に実施した選考と同様の考え方と方法で実施したいと考えていること、に関し発言があった。

その後の意見交換において、委員から、昨年の大学総括理事の選考の際は信任調査が行われたが、その後の構成員からの評価をどう考えているかとの質問があり、理事長から、各大学における財務上の課題への克服や教育プログラムの見直しなどの課題に対して、個々の意見の相違はあれど、大学としての一体感を形成しようと尽力し、進むべき方向性が共有されつつある点は評価できると考えており、私自身も今後も構成員の声に耳を傾けていきたい、との発言があった。

また、委員から、奈良女子大学において、若い教員の意見を聞く機会を増やして欲しいことと、執行部と各学部との円滑な情報の伝達について意見があり、理事長から、大学の教職員には、良質な教育や研究を担保するための知恵を積極的に出してもらう必要があり、対話の機会や、大学運営側の意思が全構成員に平等に伝わる機会を持つことが重要であることをあらためて認識した、との発言があった。

さらに、委員から、理事長が機構の経営を進めていく上で決断した判断を尊重したい、との意見や、両大学総括理事とも経営協議会における委員の指摘に真摯に対応しており、次の1年でそういったことの成果も上がってくることを期待したい、との意見があった。

理事長の退席後に審議を行い、その結果、候補者両名は大学総括理事として、理事長とともに機構の経営と円滑な大学運営との両立に資する者であると賛同し、資料1

－ 2 のとおり、理事長へ回答することとした。

2. 大学総括理事（学長）の任期の見直しについて

議長から、資料 2 により、大学総括理事（学長）の任期の見直しに伴う規程の一部改正について説明があり、審議の結果、これを承認した。

3. その他

特になし

以 上